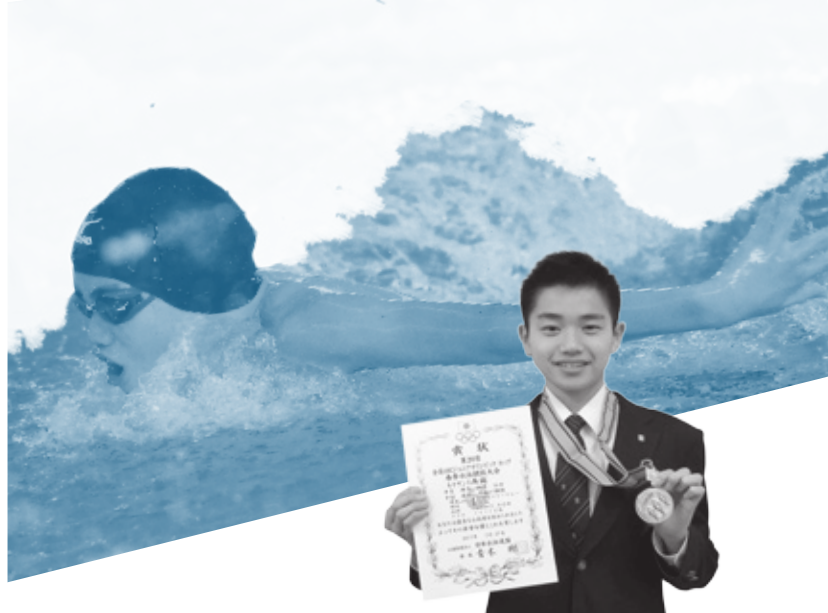


「生後10カ月からスイミングスクールに通い物心がつくころには、泳ぐことが当たり前になっていた」と語る仕黒さん。その後も、練習に励み続け、小学6年生のときに全国優勝・大会新記録樹立を成し遂げることができました。

小学5年生の夏に、練習してもタイムが伸び悩み、心機一転、ライバルたちのいる環境に練習場所を移しました。そこで、絶対にライバルたちに負けない強い気持ちで競い合うとともに、仲間でもあるリレーメンバー4人で励まし合い、1日7km泳ぐ過酷な練習に耐えてきました。その結果、ジュニアオリンピック予選では、200mフリーリレーで17年ぶりの日本学童新記録を樹立して、本戦出場を決めました。

そして、小学生最後のジュニアオリンピックでは、「2位で順番が回ってきたが、トップとの差を縮め、次の泳者で逆転できた」と、優勝および大会新記録という最高の形で大会を締めくくることができました。大会を振り返り、「今の自分があるのは、心が通じ合う仲間、コーチ、家族がいたからです。このリレーの優勝メダルは私の一生の宝物です」と感謝の言葉を口にしました。



第39回全国ジュニアオリンピックカップ  
春季水泳競技大会

11～12歳 男子200mフリーリレー **優勝** (大会新)  
 11～12歳 男子200mメドレーリレー **優勝**  
 第十一中学校 **仕黒 詠士**さん (当時 青井小学校6年生)

第十四中学校吹奏楽部が、平成29年度の全国マーチングコンテストで5年連続となる金賞に輝きました。

十四中の強みは、動きの速さとまとまりのある演奏。この演奏を、部員88名もの大人数で実現するのは困難で、演奏がバラバラになり、ときには口論になったことも。そんなとき、部員の気持ちを一つにするために、一人ひとりが課題意識を持つこと、お互いの考えを理解することが大事であると部員同士で話し合う環境を作りました。「すぐにみんなの気持ちまとまったわけではないが、意見をぶつけあえたことで、徐々に信頼関係が深まっていった」と部長の和久さんは話します。

団結力を高めたチームは、全国の舞台で一体感のある演奏を披露し、会場を沸かせました。メンバーたちは大会を振り返り、口をそろえてこう語ります。「ぶつかり合いながらも、家族のように自分を理解してくれて、意見を言い合える仲間ができたことが、金賞以上の宝物になった」と。

すごいね！  
あだちの  
子どもたち

VOL.20



第30回全日本マーチングコンテスト **金賞**  
第十四中学校 吹奏楽部



Information

学校支援課 庶務係 ☎ 3880-5961